



片歌道のもくろ





五五

西川口氏藏本

東京芝場町
中村甚吾齋門
無別庵是三

ウマコリ アマタリ ミスバカルシナノ リニシナサカル ミコシ
味織の綾を結うー。ニ管刈科望乃園科坂をニ城
道に結ひたふを以て言霊の助け強へ給うや言
ひゆりるるく思ひ給う教事なむあるを海はるる
アラ ターニ ニギター 和魂を思ひぬぐくふれは
世のよきるはむ教あくとむニ管をなると刈をけつば片旅を
科坂とて言ふに旅にも登りて上るをこそく教む
とるん作ふんあむ人ばを結かりを見て雙を結

片次巻はるる

序

五

はく先にやまのたはへしとあはれを後述くその法はあや
かきけはぐとたおしくいひりしはゆなれを文にもかきりしが
かくるるをこつちたもくおし

東野ちゆき

あやの里はあはれし
あはれしゆのこもみちならさすはあや向勢をみやびと
かひし。あはれし破るははのみ園にゆきしとあはれし
あはれしをかきしとあはれしをいひりしとあはれし
西洋参の老成てふ位とあはれしとあはれしとあはれし
だあるとあはれしとあはれし
あはれしとあはれしとあはれしとあはれしとあはれし
あはれしとあはれしとあはれしとあはれしとあはれし

目一園りくちる係京兎ぐりむまにやぐ係そにむあおゆく
まじく

目一園場西にぐ横相身にやぐ係例の友あつまゆく

目一園志多入里のこしや

あきくは秋にぐの係縁相づりやぐ係友人ひんあゆむ

こつものまきる係友に畔をまきりあしひく目一園は
ワタヒ

小糸とくハ秋葉つりこじやぐ

あゆむの是れまじ雨衣かりやぐ歌そは子宿阜たこ

イサリヲ

漁と川夕柳波杉町が係るまきる本白にぐあしは友人

あらしまゆ

とものうたてもやぐ係るが友にやぐ係あしはぐ橋身はせ
こつハレこハレ

そふ九鼻塗海へせうそあつてはるあ系雁年あ一がへ

まじく

目一くに秋田山の係破石ぐりやぐ係たの係水あてまきる
アハヒ

あしひくはあつた係色平に挽く係あやけしはか

らま由たハやみくあゆ

目一國の船なるは、葉後かまら、
おろぐくに相生の高磯なりや、
おにもあまふ

おろぐ一國のお宿の葉梅なりや、
おあそはくつらん

目一國のさる船の麦舟なりや、
おなぐくにいぬ國の麦船合にも

信濃は若村なるは、
おあまの

こころの

目一國のさる船の戸葉が、
おろぐくに松葉が

おろぐくに松葉が、
桃圃あふむが

おろぐくに松葉が、
おあまの

おあまの

目一國の若葉を、
おあまの

おあまの

城のちり、
おあまの

おろし^{イナ}のふれ^{イナ}船が^{イナ}た^{イナ}ら^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}
す^{イナ}い^{イナ}く^{イナ}く^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}

目^{イナ}一^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}が^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}

おろし^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}は^{イナ}る^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}が^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}
い^{イナ}ま^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}が^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}

す^{イナ}い^{イナ}く^{イナ}く^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}

おろし^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}は^{イナ}る^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}が^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}

い^{イナ}ま^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}が^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}

目^{イナ}一^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}が^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}

又^{イナ}は^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}

お^{イナ}ろ^{イナ}し^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}が^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}

お^{イナ}ろ^{イナ}し^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}が^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}

おろし^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}が^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}

おろし^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}が^{イナ}の^{イナ}お^{イナ}ん^{イナ}を^{イナ}い^{イナ}ま^{イナ}す^{イナ}

片歌のほし

片歌のほし

幸ハか望^レたぬにありひま^レとよ^レたれ^レと^レま^レづ^レち^レの^レみ^レや
り^レを^レた^レけ^レぬ^レは^レの^レほ^レし^レの^レほ^レし^レ。
唯一通ノ文章ナカ^レテ、予里ノ行モ二歩ヨリオコルト云フ

心ヨ^レ合^レテ、コレハ片歌ニ定タ^レル始終ヲ書給フナリ。題号モ又此文段ヨリナレリ

ひとくさうのほし

吹くとも^{ウキ}おこばうりぞ^{ウキ}神さう

あるの國をあらば^レて^レゆく^レの^レあ^レぬ^レは^レを^レた^レど^レも
く^レく^レを^レた^レひ^レの^レほ^レし^レの^レほ^レし^レ。
「イガチ」

片歌のほし

あつたのひとばつ 社國ハ川をかまるといふ 此川ハカぬの川

あつたのひとばつ 社國ハ川をかまるといふ スベテ可義都氣勢上野 之母都家野下野

不孝の孫とあーぐくは孫も見えざる人哉

「吾し」 あがゆくかたをたふさぬに由縁かよ

かまーものひとばつ 社國ハ川をかまるといふ

「馬士し」 うまやつらうとていふてゆうむ

くつくとあつとやぶつとあつとの人くつとあつと

そのまなるまなり

小泉てふ所に古城の孫あまるといふ人ありて 如何ナル人 コセリテし

つとての軍にうかくあれむとてあつとにあつとが来りた

あつと親を ヒナチカ 孫にたはれぬがさしはひしるまといふはう

いもるにことかては

このぬたつとやうつとあつと

花はくたつとあつとあつと

あつとの学校にいふと孔子たみかこちをあつと

玉照は仮名にもるはく構りの那

載むとれ

此丹子ハニ夜同答ト云片歌ノ
起ルヨリ近キ世ニテノ論アリ

さて花ハハ重極にるをいひしもやはけさけしるあり

あづは「ユルシ」大株とよとなれハあゝもほほとこも吹ぐ

志げあほ不ぞれ名あましくまをさぬ

りあゝいハをたやぬあはくし後身

ヤノのさうはまれのろろぬ

○百すゞび冠舞しやそくまやまの木のほは田
ナトウツグ百ニタラズ八十一ニテノ意シ

さうのよハ一あやどほ

あまそつはくゆくおきあはげも弟もくそのあは

あほぐる歌がたしらのいひおたこもあまあまがうかたは

あまもあえてらなむのやまゝいひの歌もあははほど

かー

あもあてなゝむもろりてはあまもあまあまあま

なれあまろろハ後身のやいひはあまもろろ相もねあま

ひまあまのほろりて見おあまろろあまあまあまあま

はあまハ雨のぬるいでろろあまろろあまのひろあま

やうしあまあまあまあまあまあまあまあまあま

さゆにえれたいとかりそそたけむぬひと

イトオソロシキ山ノ形ナリト云フイ

まの壁なまもむらひひそくものしに

雲ノ上

「荒振しアラビシ

「妙儀ノ降山

あゝぬまぬての歌あゝまむ山

壁ノ如クト云フイハ一トクサハ山ノ勢ニテ見カカク其終ニヨミ出タリ

さくそむひにのぼれいまははくく水がかけはあ

「ハ發語探リ

ぐんせむ

碓日ノ文段日本紀
景行紀ヲ借用井タシ

「ハ發語探リ

「イリク

トコロモシ

あまのりいそづとあはれ

喘シ道峻シク息

「馬ナナムシ

キレスルアリサシ

いざねふのがれだたらすらまのこも地もな

ゆくじまのまをえまぬ本は芽か

やぐさうちあゆほにまゆをゆくに吹のやまて傍小をを

ぬまへくまをくまをくまを

小枝シ景行紀ニシテ
ハラナトアリ

まがまをくまを

りくもるまにまを強く横くりり日まむと

「辛苦シ

からくくまをまのうまやれく

ヌケ

あまの山嶽にまをるれだまをほごまをまをまを

まをまを

あはま〜まをまをかく〜まをまを

まをまをまをまをまをまを

あつちのうまやえ梅を見ね

おいらはと今ほくう先に暮のくれ

小ま後のふにあのと志のふくあまりに松の法作るほが

みやこの人よ京一条今出川ワタリノ人松志をほくこのかたのこ

をちあち人よとひていばをさるぞゆえんあはれまの

うさひきそそのまはねを見ねふ名ハ蝶愛とまづれば茶

くぬく酒のなづいふさるいふまふて見あつた

けりりまひいふくさるくさるくはあつた

お里ばうりあけむくさ

かのまぬは園まう今ハまるうくさるく旅人のまのま

さるいふも毛ヌノ国ニテ花ハト
向ヒ給ヒ旅人ヲサス

女ハ日あや一は山まうて何まうんりみたりげまゆに

法福寺ト云タフゲシ雅名ニ
アサガハカリ書ナシタニフナリまをぬく福江の時絶くくまあり

ゆきはる入れもゆけぞとるも今様ノ片哥。鳥雲ニ入
ト云フ。春ノ季ニ用ウ

あつちあつちまあまあまあまあまあまあまあま

やまのまあまあまあまあまあまあまあまあま

松月とてさかづきしむるさきほくもおもてまへくもあはれの人
あはれむが日あるに三日ばかりぞまほり

阿保に梅園時寛之著る友梅白抱るトモタメシラハチはほくもあは

えくたもよきいひついでほものまおつてに載むトモとまほり

は丹子のむくはふおそくまらざるまなつかうけしむ

あはれしむぬ コレハ百韻ノ巻シ丹子ノ号ヲ草ノ
リミチト云ハズニ国ブリイラ論ゼリ

ひく日奈らの系にまむ示銘あつまはるまへ今かへ

さるはむとまひまはつてのつらうれむとゆく

かへ

かへはらむ

ふひくはむいひつうやあたまにぬ

志なのちもつとまはそほくも

あはれむもまほりくへあつま

惜むあはれまへはつとまは

みちらちちあはれむいひつうやあたまにぬ

あはれかへりてまほり ニ日坊八津ノ人ノ系大人ニ百セシト
道スガニ尋問ト来レル

あつちと法骨アツチノホネはさかしくしておぼたてしつゝのがけ

何者く姨イハ持やゆぞイハまじりく

姨捨山ノ大和物語
ニ出ルユエニ畧ス

るけかの婦メがは法骨アツチノホネにりりしつゝおぼたてしつゝのがけ

祖父祖母もはさかしくしつゝの部

田うゑる歌へしつゝおぼたてしつゝの部

あはの法骨アツチノホネりりかたなごの法骨アツチノホネかたなごの法骨アツチノホネ

はつちと法骨アツチノホネはさかしくしつゝの部

川中流カハナカをさかしくしつゝおぼたてしつゝの部

たつちと法骨アツチノホネはさかしくしつゝの部

法骨アツチノホネはさかしくしつゝおぼたてしつゝの部

おぼたてしつゝおぼたてしつゝの部

法骨

山ヤマの法骨アツチノホネはさかしくしつゝおぼたてしつゝの部

おぼたてしつゝおぼたてしつゝの部

法骨アツチノホネはさかしくしつゝおぼたてしつゝの部

あつちと法骨アツチノホネはさかしくしつゝおぼたてしつゝの部

この國のふるさとは西と歩はうりのとてあはれいほひも
あへんといふにあらむとてびくびくとらねばあはれに
この花やさきかたりの一花はあはれ

直中へはは國に信とてあはれとてあはれがまはれ
庭にははとみみるにあはれ梅古をのこはかまはれ
はくあはれ一とてあはれ一とてあはれをのこはかまはれ
あはれはとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれはとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

いづくおのづからかき今継落の多をたぐいに一のお
てみよにかきとてあはれ片秋のよとてあはれとてあはれ

梅古ハ人ノ句アハ眼ハ續グトイヘト三共後ヲツギテ卷テテ物ト
ナスコノ嫌フコト片哥ノ理リニカテヒテ平大人感嘆シタムコト
あはれはほい

あはれはほい
あはれはほい
あはれはほい

言はてふ所の文略がひて秀にとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれはほい

りし雨もよれりしりしもよれりしりし

白^{ウノハナ}荊花やうし海^{ウミ}波^{なみ}をうく日^ひのま

此句意ハズテニ越ベヨ道々チニ至ハ海ハウレトナリ又
又山中ニケケイルサニアバ目ハ白荊花ニカハル耳ニ波ノ
音ヲ聞ハカリコトナリアル人難シテ曰時ハ五月ナリ
白荊花ノ季時節イカ我答テ曰地理ニリテ時ニ異ニ
スルモアラハ何カ卯月ノニカキランヤ古キ善ヲ考ル
ニ人磨歌集ニ五月山ウノハナ月夜ホトキス
ナドアリ

かくたらしむる水^{みづ}のち^ちぬ^ぬえ^えて^て流^{なが}る^るは^はた^たた^たま^まの^のま^ま

「故アルホト云フカ知シ」

「チカツキノ人」

さ^さは^はの^のは^はの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

も^もの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

「對面」

「互ニ」

「現在ノ身」

あ^あの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

の^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

さ^さは^はの^のま^まの^のま^ま

源^源傳^傳

和^和水^水ぬ^ぬ

ゆ^ゆく^くや^やづ^づれ^れの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

前ノ片歌ノ意ヲ
ウケタルナリ

あ^あの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

「塞ハシ」

「岑ヲ上シ」

ひ^ひで^での^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

黒媛ハ古キ人ノ名
ニアリ猶考フベシ

あ^あの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

此段ハ大人ノ趣意シミヤビノ才オホクハサブルコヤウノ者ニ戯テアリトモ。人笑ヒト言モ出サズ。過ル者多シ其偽リ心ヲ悪ニテ此詞ヲ設ケタル也。

ひらねをさくみさるまのころもいそいそとあついで。まに
よのちをいよそあははあけがまにいとぬをさくをこめつたのく

ぬとあははにかけたり。
サブルコ
柱行女婦ニタリ四タリ。大人ヲ送リイデ。
或ハ雲ノ峯。杜鵑。復木立ナドノ句ヲ作り

テ各フトヨ紙ニ書附出シタル也。フトヨ紙ハ古キ物語ニモ出タリ。○古ノ人オハルコヤウノ
者ニモ。贈答ノ歌ナドアル。憚ル取モナリ書出セル其真心ヲ賞シテ。此段ヲアラハセリ。
猶復讀シテ
味ラフベシ

あやーかまーやどりさるまーが。今ゆくこまをく
おのひ出ーくさるまにせえつるおのよみいではは。さくいで

かくおとあーて。祢ぬううさのーゆふそとつひた。ひひあさへうは重

りふしつりやとようこ。
サアリケル事カイト
ヨキナリトシ ちうーハ人のろろゆゆぬう。

あまつるこくたれゆし。ちうさるまにひひ出りゆゆぬう。い

のりゆふちもまさゆゆぬう。
古ノ人ハ實ヲカク。詞ヲカガラズ心ノ外ナルヲタクミ
ニ云ヒ出ルヲナシ。此ユエニ思フイヲ其終ニ出ル者多シ

今のくハゆゆおほく心をよこさるまにはらるるしてたくこなま

へは。いよもいで。
今ノ人ハ心ニ思ハヌトヲモタクミサシクニ詞ヲ飾リ。又ニ不通
ニシテ。徒ニ氣象ヲノミ論ニ。身ヲ高ブリ。世ヲ偽リ。巴ヲ省ス

君はよくや。詞をまうけがざりたゆゆひだ。せさるまにゆゆぬう

こそ。秀はまうゆゆぬう。
君ガミヤビトヲ以テ。古ヘ人ノ心ニチラハント思フ。其心ヲ
愛シテ。我ハ來レリトシ。○ヌヅルハ。愛スルト云フナリ

何ともあざとるものさしあかはさちうなまにさぞ
 媛^{ヒメ}にききかうくげとくをまおのりしほひそまに
 ひあふつぞとつこまのこほりかおのりしほひ
 相^{アヒ}ミエテ後ニ閨中ノ交情又ハ秘戯ノ一トテモアカラサニ二語リテ笑ハ嘲ル者多シ
 古人ノ道ニアラス男女マヤボトラ以テ交ハハ裁スベキニアス閨中ハ語ルハカラフト
 云フヲ趣意トセルが故ニ此詞ヲ出スニ前段ニ云フ如キ
 古今ノ人實不實ノ心得ニ違ヒス引合テ味ヲ知キ
 いてらおのりあはげとちくさあぬもの
 カスメテ云フ猶
 下ノ段ヲ見ハシ
 たしげまにぬがまも君をおもひてほい
 せらしあしはちとけまもくともあべいゆみぬあめ
 〇六黒媛山ノ
 雲ノト云フ

るりくおとなまべいそく
 唐^{タウ}夢^{ユメ}見^ミ婦人曰^{ハク}妾^ハ巫山神女也
 朝^{アサ}爲^{タリ}行^ク雲^ハ暮^ハ爲^{タリ}行^ク雨^ハ
 〇セニカタモノナリテシ
 たらはよまき勢のまうひにぬだうぬま
 くほひえんおどゆくあしほぬ
 〇ぬだうぬツロキトツロ冠^{カ冠}辞^ハシコ外^トニモ
 とばうまうちどいてほいむふにひまをろくろ雲^{クモ}
 夜明^{ヨアキ}シトシテ
 白^{シロ}リナルナリ
 〇端正ノ字意アガ
 ヤカナルナリ

黒媛山ノ雲ヲ云ハントテ楚襄王ノ事ヲ
 借用ウ宋玉高唐賦云昔者先王旌高
 唐夢見一婦人曰妾巫山神女也
 朝爲行雲暮爲行雨
 〇セニカタモノナリテシ
 たらはよまき勢のまうひにぬだうぬま
 くほひえんおどゆくあしほぬ
 〇ぬだうぬツロキトツロ冠^{カ冠}辞^ハシコ外^トニモ
 とばうまうちどいてほいむふにひまをろくろ雲^{クモ}
 夜明^{ヨアキ}シトシテ
 白^{シロ}リナルナリ
 〇端正ノ字意アガ
 ヤカナルナリ

八代歌集

媛ヒメ伊里イリくろくろ里里くく清清くく山山の歌

「徘徊ノ字ニアル

かくだりくかくだりくく清清をを見見ててかかるるああー

古キ物カタリニカガコトニトアル
取アリカガハ籠コトニハ乗物シ

今ノ轎ニ

かかるるああーカガカキシ

アタルベシ

くく清清をを見見ててかかるるああー

ああー背向シウシ

ロニナルナリ

ああーあー

ああー

かかくくくく清清をを見見ててかかるるああー
ああーあー
ああーあー

ああー

ああー皇朝ノ学ノ道或歌イ

ああーツマビラカニ知レル人ナリ

ツマビラカニ知レル人ナリ

ああーあー

ああーあー

ああーあー

ああーあー

ああーあー

ああーあー

ああーあー

友人子ほをぬて

子鳳ハ京ニ住ム人ノ頼方ノニツキテアヅマニクタルヲ
蝶夢伴ナニ出シシノ井テ八伴ナリシ此兩子吸露菴ニテ

出合ニ雅談セシ
ト契リタルナリ

みやこをたるとりしあはれをりむとくは藤原をもちる

ひーがたがひほをさうみく序前もゆきゆふそのぬみハ

「アツラハシ」

猿たに何そしおまをさる

すこゝ後にええは乾山のげも遠くは縁をまはすあーと

「ッガク雨」

そがなほ雨のゆべとたたる縁

此一段前ノ雲トナリ雨トナリトニテ
段ヲ受テ前ヲ照シ後ヘヨ結ブ

あ日六日あましくそとせむるのほ

かくてとせむるのほ

あハすこゝぬてあまのべーきさる

げこらほくかまのひつふとえあはれをもちひさる

を大なるほがまひてあらのうちをうけはれたてて歌撰イタに

歌凡ちかけらむとほをあらへしあまのちのちのち

シコハ醜シツハ助字シ
悪ト云フ古キ詞シ

あへといふゆるるはらむるひるのち

らほをちまはらむるひるのち

らあこし田のちのちやう歌

とつちあけしあまのちのちのち

ちをうつらまたあし

コレハ玉照君ノ事ヲ作リ
ナレタル今様ノ長歌ナリ

今やうは若狭のうへに

うけうあはれがけさふぼくお月もかきさぬ

此長歌ノ中ニ爰ニ假
寐ノ目ヲ見テナド云

詞等
アリ

あつちのゆめをふれはせりかづらんつれいづこぞ

ひほをおひやまらしたはやくとつらむのうづかまへてやうぢ

うらハに小キ
童シ

のこころおこしめさるる

さみうしにいとぬきこころ

おのぐあぬく

うハ相てふとくけ里くくえさのうまはつづれの體ぞあはれ

土佐日記ニオドロキテイトヲカシノ文段ヲ借用

あまうしうけおほくはあはれにたまたまをゆりり

十言

短哥

十

九

言

あしたなほみいりうきけはこころのこころのこころのこころ

旋頭歌

せどううはかこころのこころのこころのこころのこころのこころ

あまみどかきかこころのこころのこころのこころのこころのこころ

よまこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころ

くくも笑であつ

古ノ片歌多クハ十九言シ旋頭歌ハ五七ニ句ヲワカフ其
片クヲ云ヘルシ然ルニ近世短哥ノ片歌ハ有テ十九言ヲ依

ル者ナシ此旋行女婦ノ曼ヲ云ヒ出セル暗ニアタレト云ヘシ大人今テコニ志ヲ置玉フ
事深シ依テオドロキ思ヒ道ノ神狐ニリウツリテカク我ニ教ヘ玉フナラント忽チ

心魂ニ徹シ敬マヒ思ヘルトシノキツニカリテトハ
俗ニリウツルト云フナリ古キ書ニ出タリ

さてみやぬのきどもはく

おのよりらりなりと。異物九にす。あぢひくがの海なるむ

見にぬく川系はいと涼く。ぬくむはをやしら。ききいりや

の山なまよひ。 「小」歌し 夕日もはやうら。はなぞく。おはる

伊香保山萬葉二
オホリヨメルナリ

おのよりらりなりと。そのふどハ。おはるいとぬ。の海に

「直土」

ひごまにはくぬき。はつと。夏をた。海にぬる。む

の種はひくあひく。海に。ききぬ。む クルナラン
トニフコ 「眉毛」 夕日

おのよりらりなりと。 俗事ヲ用井タルし。子ハ古キハ人磨
歌集ニウスキマニ子ライメツニナドツケテ 夕日

くくもりな。その。ゆの申。おのよりらりなりと。

おのよりらりなりと。やきほもる。その。け。おのよりらりなりと。

おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。

おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。

おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。

おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。

おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。

おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。

おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。おのよりらりなりと。

テ来タリシモ、今ハ
カッテオシニナリ

一向ニ孤ノ本性
見アラハサント

かゝるおはるの日はいつか

みちやあやふさ

おぼろげな月夜に 「スル」

かゝるおはるの日はいつか 「片哥」

おぼろげな月夜に 「タハレト」

かゝるおはるの日はいつか 「巳」

おぼろげな月夜に 「旋頭歌」

かゝるおはるの日はいつか 「雅言」

おぼろげな月夜に 「非情」

かゝるおはるの日はいつか 「喜末」

おぼろげな月夜に 「易」

かゝるおはるの日はいつか 「論」

おぼろげな月夜に 「作」

かゝるおはるの日はいつか 「物」

おぼろげな月夜に 「心」

かゝるおはるの日はいつか 「心」

おぼろげな月夜に 「心」

正にわさび事うらなひを愛いしつゝぬさび君をえまうとて
 けり此幸のひのちがとて世の人あり此初をあのそこハ俳諧
附合ナトシ
 深くもさびのまゝひなぬはなまのひうたさびにまをいふ
 をまへはうさび〜君さびは片がまゝ〜ささのひのちをぬか
 ぬ火のひなまをほつづが〜〜〜たさびにおちいぬまゝ
 ず〜とあさひくはほまひをさ〜〜〜あさひをえんた
 へ闇キ俳諧ノ道ニ陥リテコ面白シト思ヒニタルヲバ
何トシテアキラカナル道ニ出ル其方便ヲキヤト嘆シテ向フ

ナリ答ヒ我片哥ヨミタルハ松屋ヲ
ヨミタルニモアラス不意ニ出タルナリ

身ごとくせぬは人なす〜〜〜あはれをいひて
 て〜〜〜我今道トスルハ暗キ取ニ人ヲヒキイルヲ宗トスルニ示シ
ニテモ明ラカナル取ニ出ス方便ハシラヌトシ己擬行ヲ婦ト
サレハ
 孤ト俳人ト道ノあつこおひ小君がげをいせもある歌独人ハ〜〜〜さ
相似タルヲ云フ
 さいせもあるはづが〜
君カ此道ト指スルハ今片哥トシテ正セハ取ノ
道ニ暗キ道トハ是ヲ正シ改ムル俳諧ヲ云フ
 下〜〜〜暗きさいにおや〜〜〜定をい〜〜〜せ人におほく
 あ〜〜〜け〜〜〜日イヌミを戴〜〜〜度〜〜〜を踏〜〜〜オホキ大道を〜〜〜
 人〜〜〜
又暗キ俳諧ニ入テアリバ者ハオホキ
事ヲ正シ明ラカナル道ヲチ者ハチキ

又ぞいづるひもなつらひのくはるむべともおのゝえを。
大人モ下タビハ其暗キ俳諧ノ道ニ迷ヒ人ニ然レ其道ノ非ナルヲ知テモ心ニ
問ヒ求メ今明ラカナル道ニ出テ其迷ヒ人ヲ共ニ道ニカントシ玉フユ心アルベキ人コノ
教ヘニ昔クベシ
トオモホエトシ

コハ権行女婦
ノ世ヲタハ道ニ

とれどいづるひもなつらひのくはるむべともおのゝえを。
事ヨモテ暗キ取ヲ以テ人ヲ教ユル師範ヲサス然レハ人ヲ惑ハシテ業トスハ道ヲ
今カレ出テハ外ニ明ラカナル道ニ在テ世ニナカラヘアルベキ術ヲ知ラスト下段ヲ見令
唯人のよきくはるむべとをびつらひもあつたはれいごたてむとハあはれ
アルハ俳諧ヲ以テ人ヲアヤムルヲ知ラスコレヲ好ム人又ハ門人
等ヲ集メ謾リ九言ヲ吐テ業トス故ニ人モ明キ道出サズ
みーとらうはるむべとをびつらひもあつたはれいごたてむとハあはれ

おしど一日も世をさへばぐりげんぐりにまはりのゆるこ
善悪ノ取ヲワキテ又人モアラジ故ニ其己レガ身ヲ
皆心ハツカシキヲモアレハ強テ教ヘガレハ人慕ハズ
然レドモ
スコレハ

佛説くふをを捨くも事をおにたしはれいごたてむとハあはれ
大人ノ願ヒカハ天儀ナレハ
一世ニ景キ物ニアララシ後世

待テトシ
さては火は焚里につといでたりとこもあはれにつといであり
コレ大人ノ未來記ナラシ故ニ
記ハサズ唯地理ニヨリタリト知レシ

とらふれ
初夜
とらふれ

みるのちうらむらうはるむべとをびつらひのくはるむべともおのゝえを。

あつちやう

みちのちやう

子をたれりかゝるるるる

夏の一雉一

古事記八千矛神サヌツリ
キヅミハドヨムナドアリ

西洋人志すそくおんはひりたぢいぬ

壹字白水子丹杉路るそくおんはひりたぢいぬ

あまひやう

近江川口氏藏

たるは月のはーたゝとていゝるるるる

一困スル



吸露菴藏板

江戸通本町三丁目

春肆 須原屋市兵衛

申六
〇〇

